

三谷坂 [妙寺駅～丹生都比売神社・町石道]

三谷坂は、丹生酒殿神社を起点として丹生都比売神社に参拝し町石道へ、あるいは笠松峠から直接町石道へのぼり高野山を目指す古代からの参詣道です。沿道には笠石(南北朝時代)・頬切地蔵(鎌倉時代初期)などの仏教関連の石造物があり、まさに信仰の道です。大正13年、丹生都比売神社が官幣大社に昇格したことを祝う祭りに向かう天皇陛下のお使いが通られたことから、勅使坂とも呼ばれます。

1000m	2.2km	丹生酒殿神社	0.2km	宮	0.9km	笠石	0.7km	録立て岩・経文岩	0.6km	涙	1.1km	頬切地蔵	0.6km	まっとう岩	0.3km	笠松峠	1.3km	六本杉	1.4km	丹生都比売神社
800m	25分		5分		14分		15分		11分		21分		17分		8分		20分	20分	20分	
600m																				
400m																				
200m																				
0m																				

高野参詣道三谷坂

台風21号(9月4日)の影響で、
倒木があり、

「笠松峠～六本杉～丹生都比売神社」、
および
「笠松峠～丹生都比売神社」
が通れません。

迂回路: 「笠松峠」から「**県道109号**」
を通り、丹生都比売神社まで通れます。

2018年9月8日
かつらぎ町役場 産業観光課



丹生酒殿神社の西の谷、左右から迫りくる対峙形の両岸壁とくすかに射す日の光のなかで、この滝は、静かに流れ落ちます。
六月の晦日に、丹生都比売神社の神主が社人六人を率いて、その日まで食べなかったキュウリをこの滝にお供えし、村の子どもたちがそれを食べると疔瘡が軽くなったといわれています。
紀伊続風土記には、宮ノ滝とも書かれており、上記のほか「河童の患いも免れた」との記述があります。
※滝の前まで行くのは大変危険ですのでおやめください。



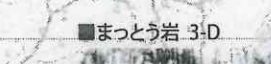
空海の笠が雨引山から風に飛ばされてこの石に掛かったといわれる石造物で、笠と塔身からなり、下部を地中に埋め込む埋込式の笠塔婆です。通常は、宝珠が笠の上に飾られますが、塔身の上端を尖らせて笠を突きやぶる特異な形態となっています。笠の形態も、ほぼ自然石のままの特異なもので、軒などの加工が存在しません。これは木製から石製に変化した原形形態の可能性があり、全国的に見ても非常に希少です。塔身の上端には、阿彌陀如来坐像が半円彫られ、その形態から、南北朝時代のものと推定されます。



録立て岩は、丹生都比売神が録を立てたといわれている岩で、もとは現在より大きかったのですが、道路工事の際に切断されてしまいました。録ノ御跡岩ともいわれ、紀伊続風土記に次のような記述があります。
神山の南十町根長術風といふにあり丹生津姫集天野へ御遊びの御跡といふ岩に録の跡あり
経文岩は、経文が書かれた岩を意味すると思われ、現在のところ、文字や、文字が刻まれた痕跡等は確認できません。



自然石から一重塔を造り出し、北正面に金剛界大日如来、東側面に釈迦如来、西側面に阿彌陀如来を半円彫し南背面は自然石のままという、全国的にも極めて特異な石造仏です。仏像の立体的形態や、笠のおおらかな形態から、鎌倉時代初期のものと考えられます。
大日如来のほほの割れ目が傷のようにみえることから首から上の痛に効くといわれ、地蔵信仰とあいまって頬切地蔵といわれるようになったと考えられます。



尾根筋の端に、見上げるほ



かつてこの谷を流れる清水は、どんな日照りにもかき流され、人々の渴きをいやし、下流の田畑を潤していました。いつのころからか、村人はこの舌状の岩を涙岩と呼び、岩をつたって流れ落ちる水を、涙水というようになったといわれています。

倒木あり
とおれません

迂回路
県道109号



二ツ鳥居は、丹生都比売命は天照大神の妹とされ延喜式内大社でした。空海が、この神の子、高野明神(狩場明神)が騎っていた黒白2匹の犬に導かれて高野にのぼったという話は有名で、以来高野の守護神として敬われています。



弘法大師空海が建立されたといわれているこの鳥居は、二つとも高さ約6mの花崗岩製、一脚の重さ約4.5トン。現在は鳥居に顔はないですが、丹生・高野阿彌陀大神の鳥居とされる重要な遺構です。



1 : 12,500
0 500m 1000m

九度山町

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。(承認番号 平28情復、第427号)